

## 2022年度第2回入学試験問題

### 国語

「始め」の合図があるまでは問題を見てはいけません。

#### 注意

「始め」という合図で始め、「やめ」という合図で、すぐに鉛筆をおきなさい。

問題は2ページから8ページまでです。

解答用紙は問題冊子にはさまれています。

最初に、解答用紙に受験番号・座席番号・氏名を記入しなさい。

答はすべて解答用紙に記入しなさい。

字数制限のある問題については、かぎかっこ・句読点も一字と数えなさい。

文字は楷書かいしょで、一点一画ていねいに書きなさい。

質問や用があるときは静かに手をあげなさい。

一 次の文章はコマリに連れられて、床屋を営んでいるカンとエリの家に中学生のジュンが訪れた場面です。コマリとトクはジュンと同じ中学校の吹奏楽部員です。カンとエリはトクの父と母で、ジュンとは顔見知りです。文章を読んで、後の間に答えなさい。

もしコマリがいなければ、床屋に足を向けることもなかつただろう。音楽室より音楽に溢れた床屋は、歌を失つた今、遠巻きに眺めるだけでも憂鬱になる。だからもう、かれこれひと月近くジュンは床屋を訪れていなかつた。

(中略)

コマリと並んで廊下を歩きながら、カンは早速トクの愚痴をこぼし始めた。父親にだけ学校の話をせず、父親の洗濯物だけたたまらず、父親の靴だけ蹴散らして出かけていく息子をどう思うかとコマリに迫り、対するコマリは緊張しながらも必死にカンの味方をした。

二人のうしろを、ジュンはとぼとぼついていった。初めて歩く暗い廊下も、窓から見える庭の風景もよそよそしく、一步と不安になつた。

「ジュンくん、髪、伸びたねえ」

うしろから、静かでのんきな声がした。振り返ると、エリが声と同じように静かな笑みをたたえていた。

「今日はちょっと冷えるから、あつたかいほうじ茶、淹れようね」笑顔のまま、エリは言つた。

そこで不意に涙の匂いを嗅ぎ取つて、ジュンはすぐに前を向いた。帰りたいと言つたら今だと思つたけれど、言えなかつた。

居間に入つてからも、ジュンは黙つたままだつた。お茶の用意をするエリの隣に正座をし、通学かばんを肩にかけたまま、じつとちやぶ台の一点を見つめていた。その1 知らない部屋を形成する、到底受け入れることのできないものたち——きれいに張られた障子や、傷だらけの柱や、写真が二つ並んだ仮壇、年代物のエアコン、最新式のテレビ、そのテレビに繋がれたゲーム機、マタニティ雑誌の上に重ねられたスポーツ新聞、小物入れになつてているガラス製の灰皿、シミのついた座布団などが、なるべく目に入らないようになつた！

「なんだよ。さつきから、Aみたいに」そう言うと、カンは押さえつけるような力強さでジュンの髪をかき回した。真下を向いたそのときに、ジュンはひと月前より大きくなつたエリのお腹に目を留めた。「な、ゲームやろうぜ。新しいの買つたんだ。対戦しようよ、俺対、ジュンとコマリチームで」

「お皿にかりんどう出して、カンちゃん」急須に茶葉を入れながら、エリが言つた。

「二人の用事、ちゃんと聞いてあげてよ。ゲームは今日、朝からずっとやってたでしょ」

「あ、用あつて来たの？」隣接する台所に入りながら、カンは意外そうな声を出した。

「なんだ、俺、なんとなく寄つただけかと思つた。ほら、わざわざ火曜狙つて来る人いるじやん。カスガイさんとかモモチの爺さんとかさ、ちやあんと車あるの見て、なあんも用ねえのに一時間も二時間も座り込んで、やれ膝がどうの、畑がどうの、息子が出世してどうのつて……俺みたいに話して楽しいかねえ」カンはそこで、何やら物音をたてながら、「皿つて何？ なんでもいいの？」

「木のお皿。丸いやつ。親孝行だと思えばいいのよ」エリは電気ポットの赤いランプを見ながら答えた。(中略)

「あの、イオさんって、イオ先生のことですか？」そこで、コマリが口を挟んだ。「あの、実は私、今日はイオ先生のことを教えてもらおうと思つて……」

「ああ。そうそう、イオ先生」カンは笑顔で答え、エリの注いだお茶をコマリの前に置いた。「そつか、イオさんこないだ三中來たんだつけ。ああ俺、そんときの話も聞いてねえや」そこで視線をエリに向か、「トク、なんか言つてた？」

「どうだつたかな」エリはそこでジュンに目をやり、「かばん、下ろせば？」と声をかけた。

「いや、すごかったですよ！」コマリは目を輝かせた。「2 魔法使いみたい」

「だろお？」カンは得意げにほほ笑み、ほうじ茶をすすつた。「高校のときからああなんだぜ。気に入らない音楽教師、ピアノと口先で負かしてさ、下克上げこくじょうって感じに実権握つちやつた人なんだ。それで選抜の合唱隊鍛え上げて、初めての指揮、初めてのコンクールで、銀獲ilverつて帰つてきちゃつたの。とんでもねえよ」

「ちなんみにエリは、そのときのアルト」カンがかりんとうをかじりながら言うと、  
「すごい。銀賞メンバーだつたんですか」とコマリは身を乗り出した。「イオ先生、そのときから、魔法使いみたいでしたか？」

「うん。まあ」エリは一口お茶を飲み、息をついた。「でも私はどちらかといふと、宇宙人みたいって思つてたけど……」

「実際あの人、火星人だからね」カンの言葉に、ジュンは驚いて目を上げた。  
「ピアノ弾かせるとわかるよ。いきなり腕が八本になる。本人はうまく地球人になりすましてるつもりみたいだけど、ちょっと喋しゃべるとわかるだろ——」

『3あ、話、通じてない』

「はい」コマリは大真面目に頷うなづいてから、「あの、でも、指揮してもらうと通じますよね」と、同意を求めるようにエリを見た。「私、指揮があんなに重要だつて、イオ先生に会うまで全然実感なかつたんです。だつて私たち、よく指揮者なしでも合わせてて……別にそうしようとしてするわけじゃないくて、誰かが吹いたフレーズに、誰かが合わせて、そこにまた別の誰かが乗つかつてつていう感じで、自然に始まつちやうことがあるつていうだけなんだけど。でもそれであらんとかたちになるから、指揮者なんて正直、念のためにして立つてるとか思つてなかつたんです。だから偉そうに指示されたり、文句言われたり、一人だけ立つて吹かされたりするともう、ほんと、むかついてむかついて……」

熱っぽく話し始めていたコマリは、そこで突然、ひゅつと首を縮めた。三

「イオさんだつて、むかついたけどな」のんきな声で、エリが言つた。「指揮棒持つと、あの人、平氣でひどいこと言うんだもん。何回泣かされたかわかんないわ」

「でもイオ先生は」とコマリは再び口を開き、跳ね返すように言つた。「別に、その生徒のことが嫌いでそういうことを言つてるんぢやないつて、わかっているだけなんだつて、こつち側に座つてゐみんなに、ちゃんとわかるので」

コマリの白い頬ほおが上氣し、その声が震え始めたのに気付き、三人は再び彼女を見守つた。

「ほんとは、最初、すぐ怖かつたんです」膝の上に手をついて、コマリは小さく話し始めた。「だつて指示が、『飛ばないで、はばたくだけ』とか、そんな感じで意味わかんないし、ピュウピュウ指笛吹いたり、舌を鳴らしたり、手話みたいに、ジエスチャーだけで伝えようとするのも謎だつたし、あとはやつぱり……ちょっと、冷たい感じがする先生だつたので」伏せていた目を、コマリは申し訳なさそうに上げた。

「でも、イオ先生を見てるとわかるんです。イオ先生は生徒のことなんか気にしてなくて、ただ音楽のことだけを考えてるんだつて。音楽にとつて、曲にとつて、どうするのが一番いいかってことだけをずっと考えてるんだつて。だから最後は全員が、バンドつていう、一つの生き物として幸せになれるんだつて。このあいだもそうでした」コマリはそこで、不意に涙声になつて、「それがまるで、魔法みたいだつたんです」

『4ジュンは、何故なぜだか叱しかられて、話すのをやめもしなかつた』

カンとエリは、コマリの大きな瞳ひとみに見入つていた。そんな二人を見たと同じようにひゅつと首を縮めた。

「あの、私、ああいうの初めてだつたので」カンとエリを交互に見ながら話すコマリは、涙をこらえず、話すのをやめもしなかつた。

「これだ！つていうアイデアに、あんなにどっぷり、飲み込まれたの。ずっと考えてたことなんです。ハッピージャンキやいけないのかなつて。音楽つて、気持ちが繋がらなきや意味ないのかなつて。だつて、たとえばイオ先生

だつて、私にとつては初対面の人なわけだし、そんな人と、いきなり、心を通わせるなんてできるわけないじやないですか。でも今までは、そういうことが大事だつて教わつてきたんです。気持ちを一つにして演奏しましようつて」コマリはそこで、大きく鼻をすすつて、「でもそんなの、無理なんです」と呟いた。

□ B なんです。絶対無理。だつて私、嫌いな子、いっぱいいるし、私のこと嫌いな子は、それより多いし、先輩にも顧問にも目え付けられて、もう取り返しづかいくらいなのに、そんな人たちと、気持ちを一つになんてできません」

流れ落ちる涙を手の甲で拭いながら、コマリはまた、勢いよく鼻をすすつた。エリがそばにあつたティッシュの箱をカンに渡し、カンがそれをコマリに差し出した。涙もろいカンは早くも目に涙を浮かべ、その大きな手をコマリの震える背中にあててやつていた。（中略）  
ちやぶ台に片肘をあずけ、爪の先をいじり、「もし俺なら、せめてあのぐらい自分のこと許してくれる奴とじやなきや、バンドなんかやりたくねえなって話なんだけど」とカンは言つた。「ていうか、お前のこと嫌つてる奴なんて、ほんとに、そんなにいるのかな。だつて俺たち、こんなにポンポン人を好きになるのにさ」

コマリは顔を強張らせ、胸の前で持つていた湯飲みを、ゆっくりと膝の上に下ろしていった。

「そんな人ばつかりぢやないです」うつむいて、コマリは小さく返した。「悪口言つたり、人を嫌つて元気になるような人も、たくさんいます」「でもそんなの、お前が泣かされる理由になる？」口ぶりは悔しそうだつたけれど、その顔には笑みが浮かんでいた。

「高校のとき、友達とバンド組んでてさ、鍵盤やれるメンバー欲しさにイオさんを誘つたらこう言われたんだ、『馴れ合いバンドに触るとアレルギーが出るから』。確かに馴れ合いだつたかも。五人のメンバーのうち三人は近所の同級生だつたし、あとの一人はその弟だつた。年がら年中一緒の奴らで、本気の喧嘩もよくなしたけど、結局なんでも許せる仲だ。バンドも遊びの延長で、イオさんにしてみりや、断る理由を口にするのも面倒だつたろう。でも

別に悔しくなかつた。鍵盤担当を手に入れ損ねたつてことを除けば、まつたく。だつてあの人人が指先さえ触れようとしない世界で、毎日どんな奇跡が起きてるか、俺はよく知つたから」音とリズムだけで形成されているはずのカンの声が、何故だか、膨大な意味を含む言葉としてしか聞こえなかつた。それが苦痛で、ジュンはゆつくり、慎重に腕を動かし、手のひらで強く耳を塞いだ。心細さに涙ぐんだけれど、誰もそれに気付かなかつた。

「好きな奴らともやれよ、コマリ」それまでより静かな声で、カンは言つた。「何個『大』付けても足りないくらい好きな奴らと、試しでいい、やつてみろよ。□ C 魔法を、自分たちでかけられるんだぜ」

まばたきもせず、コマリはカンの笑顔を見つめていた。その瞳に、熾火の色が見えた気がした。

（古谷田奈月『ジュンのための6つの小曲』〔新潮社〕より）

問1 傍線部1 「知らない部屋」とあります、『床屋』の「居間」にジュンは何度も入つたことがあります。この「知らない部屋」という表現には、ジュンのどのような気持ちが込められていますか。その説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- A 帰りたかつたのに帰れなかつたことで、自分の思いのままにならない状況や、言葉を失う場面に置かれて不満を覚えているということ。  
B 歌を歌えなくなつてしまつたために、部屋にあるものを見るにつけても、かつて訪れた時の憂鬱な気持ちになつてしまふということ。  
C 気乗りがしないままにしかたがなく来てしまつたので、以前見た部屋にあるものを見ても自分には関わりがないと思えたということ。

□ A に入る最もふさわしい慣用句を次から選び、記号で答えなさい。

ア 借りてきた猫  
イ 狐につまれた

ウ 同じ穴の貉

オ 牛に引かれた  
井の中の蛙

問6 □Bに入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア 不幸 イ 不自然 ウ 不可能 エ 不誠実 オ 不思議

問7 □Cに入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。

問3 傍線部2 「魔法使いみたい」とあります、それはどういうことです

か。解答欄にふさわしいことばを三十字以上四十字以内で補って答えなさい。

問4 傍線部3 「あ、話、通じていない」とありますが、そのことを表す本

文中の例として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア イオ先生はピアノの演奏に集中すると、自分の時間の中に入り込んで周

りの人を顧みなくなるということ。

イ イオ先生が気に入らなかつた音楽教師をピアノと口先で負かして、教師の権力を奪つてしまつたということ。

ウ イオ先生の教え方は感覚的な言葉や指笛、ジェスチャーを使うため、そ

の意味がわからないということ。

エ イオ先生はコマリにとつて初対面の人なので、演奏中に心を通わせられなかつたということ。

二 次の文章を読んで、後の間に答えなさい。

日本語はどこが特殊か。それは表意文字と表音文字を併用する言語だということです。

かつて中華の辺境はどこもそのようなハイブリッド言語を用いていました。朝鮮半島ではハングルと漢字が併用され、インドシナ半島では「チュノム(字喃)」と漢字が併用されていました。(中略)

その中で、日本はとりあえず例外的に漢字と自国で工夫した表音文字の交ぜ書きをいまだにとどめている。

漢字は表意文字(ideogram)です。かな(ひらがな、かたかな)は表音文字(phonogram)です。表意文字は図像で、表音文字は音声です。私たちは図像と音声の二つを並行処理しながら言語活動を行つていて。でも、これはきわめて例外的な言語状況なのです。

文字と音声の両方を使うという点では世界中の文字言語はどこも同じじやないかと言う人がいるかも知れませんが、1日本はちよつと違う。

ユンは、□五字ことで音楽に幸せを感じられず三人の輪から外れていたので、責められているような気持ちがしたから。

問5 傍線部4 「ジュンは、何故だか叱られているような気持ちになつて」とあります、そのような気持ちになつたのはなぜですか。その理由を説明する次の文の□に最もふさわしいことばを本文中から五字で探し、書き抜きなさい。

カンとエリはコマリが音楽への熱意を語ることに魅了されていたが、ジ

ユンは、□五字ことで音楽に幸せを感じられず三人の輪から外れていたので、責められているような気持ちがしたから。

的な難読症とは違います。文字処理を扱っている脳部位が外傷によって破壊された結果です。欧米語圏では失読症の病態は一つしかない。文字が読めなくなる。それだけです。ところが、日本人の場合は病態が二つある。「漢字だけが読めない」場合と「かなだけが読めない」場合の二つ。意味することはおわかりになりますね。漢字とかなは日本人の脳内の違う部位で処理され、いるということです。だから、片方だけ損傷を受けても、片方は機能している。

日本人の脳は文字を視覚的に入力しながら、漢字を図像対応部位で、かなを音声対応部位でそれぞれ処理している。記号入力を二箇所に振り分けて並行処理している。だから、失読症の病態が二種類ある。

言語を脳内の二箇所で並列処理しているという言語操作の特殊性はおそらくさまざまなかたちで私たち日本語話者の思考と行動を規定しているのではないかと思います。(中略)

もともと際立った事例は「マンガ」という表現手段が日本において選択的に進化したという事実です。これに異論のある人はいないでしょう。マンガの生産量についても、質についても、(注1) イノベーションの速度においても、日本は世界を圧倒しています。(中略)

日本のマンガは日本の雑誌掲載時のスタイルのまま、文字は縦書き、<sup>ページ</sup>は右から左へ進みます。欧米の漫画は文字は横書き、<sup>ページ</sup>は左から右です。歐米の漫画を読みなれた読者にとって、物語が右から左へ移行するマンガを読むためには(注2) リテラシーそのものの書き換えが必要でした。そのようなリテラシーがまだ十分に育っていない時期は、日本のマンガは「裏焼き」され、欧米仕様の読み方で読めるように改作されました。

それが今では、マンガだけは、欧米でも、日本で読むのと同じ製本、同じコマ割りで読めるようになった。欧米の若い読者たちがマンガをオリジナルの味わいで読むことができるよう、彼らのリテラシーそのものを書き換えたのです。彼らが自分たちの文字の読み方の定型を崩しても惜しくないと思えるだけの水準の質に日本のマンガが達したということです。

なぜ、日本人の書くマンガだけが(とりあえず今までのところはというこ

とですが)例外的な質的高さを達成しうるのか。「これは言語構造の特殊性によるのである、ということをアカンパされたのは、これまで養老先生です(受け売りばかりして、すみません)。

白川静先生が教えるように漢字というのは、世界のありさまや人間のふるまいを図示したもので、白川漢字学の中心になるのは「サイ」という表意要素です。「サイ」は英語のDの弧の部分を下向きにしたかたちです。この文字を後漢の『説文解字』以来学者たちは「口」と解したのですが、呪具の象形であるという新解釈を立てました。そしてこれを構成要素に含む基本字すべての解釈の改変を要求したのです。

例えば、「告」は「木の枝にかけられたサイ」であり、それゆえ「告げる」とは「神に訴え告げること」になります。「サイ」を細長い木につけてささげると「史」になります。聖所に赴くときは、大きな木に「サイ」をつけ、吹き流しを飾り、奉じて出行する。【A】は「サイ」と「兄」の合字です。【兄】は祝禱の器であるサイを奉じて祖靈に祈る人を指します。サイを二つ並べると「咒」となり、これは烈しい祈りを意味します。祈りを通じて忘我の境位に達すると「兄」という。「兄」(祖靈に祈る人)の上に「八」を加えたものであり、「神気が髣髴としてあらわれることを示している」などなど。

白川先生の解釈から私たちが知るのは、古代の呪術的な戦いは言葉によって展開したということです。「文字が作られた契機のうち、もともと重要なことは、ことばのもつ呪的な機能を、そこに定着し永久化することであった」ということです。

私たちも漢字の原意を知りません。けれども、漢字がその起源においては、私たちの心身に直接的な力をふるうものであつたという記憶はおそらくいま意識の深層にとどめている。漢字というものは持ち重りのする、熱や振動をともなつた、具体的な共物質性を備えたものとして私たちは引き受けた。そして、現在もなお私たちはそのようなものを日常の言語表現のうちで駆使しています。

私は日本人が漢字を読むときに示す身体反応と、中国人が漢字を読むとき

に示す身体反応は違うだらうと思います。中国人にとって、漢字は表意文字

であると同時に表音文字でもあるからです。だから、外来語をそのまま漢字に音訳して表記することができます。日本語は外来語はカタカナ表記で処理しますから、漢字は表意に特化されている。だから、漢字の表意性は中国語においてよりも純粹であり、それだけ強烈であるはずです。だとすれば、白川

漢字学の言う漢字の「呪的機能」は現代中国より現代日本においていまだその**2 残存臭氣をとどめているのではないか。**

アルファベットを用いる言語圏と、漢字を用いる言語圏での難読症の発生率には有意な差が示されていますが、おそらく日本語話者において、難読症の発生は世界でもっとも少ないはずです。医学的にはまったくの素人の推測ですから、専門家は取り合ってくれないでしようけれど、文字がざくりと身体に刻み込まれ、切り込んでくるという感覚の鋭さは、日本語話者と英語話者では明らかに違う。(注4) “curse” という文字が英語話者にもたらす不安と

(注5) “咒” が漢字読者にもたらす不安は質が違うはずです。

私たちは言語記号の表意性を物質的、身体的なものとして脳のある部位で経験し、一方その表音性を概念的、音声的なものとして別の脳内部位で経験する。養老先生のマンガ論によりますと、漢字を担当している脳内部位はマンガにおける「絵」の部分を処理している。かなを担当している部位はマンガの「ふきだし」を処理している。そういう分業が果たされている。

マンガは「絵」と「ふきだし」から構成されています。「ふきだし」が文字で書かれているので、私たちはそれが表意機能ではなく、表音機能を担っているということをうつかり見落としています。間違いなく **B**。

私が子どもの頃、マンガを読むとき、「ふきだし」部分を音読している子どもがずいぶんいました。あの子どもたちはおそらく音読することを通じて、

「ふきだし」は音声記号として処理せよ」という命令を自分の脳に **b** オススメ

込んでいたのではないでしょうが。私自身はマンガを黙読していましたが、

それは幼児期からのマンガのヘビー・リーダーであつたために「ふきだし」

を表音記号として処理する回路がもう出来上がつていたからではないかと思

います。というのは、音読していると頁をめくる速度が遅くなるからです。

**3 寸暇を惜しんで** マンガを読んでいる身としてはそんな手間暇をかけるわけ

にはゆかない。

マンガを読むためには、「絵」を表意記号として処理し、「ふきだし」を表音記号として処理する並列処理ができなければなりませんが、日本語話者にはそれができる。並列処理の回路がすでに存在するから。だから、日本人は自動的にマンガのヘビー・リーダーになれる。

一方、欧米語話者には処理回路が一つしかない。もちろん読書人の中には意的に読むという技術を習得している人はいると思います。Quixotic という文字を見ると、「クイクサティック」という聴覚像より先に、ロシナンテにまたがり、サンチョ・パンサを供に荒野を行く憂い顔の騎士の画像が浮かぶという人がいても不思議はありません。けれども、アルファベットを一瞥すると、それが表意的に立ち上がり、ある種の物質性を持つて直に身体に触れてくるような「白川静的」読字経験ができるためには、どうあっても長期にわたる集中的な、ほとんど偏執的な読書体験が必須です。その条件を満たす人はごく少数にとどまるでしょう。(中略)

だんだん話が逸脱してきましたけれど、マンガの話をしていたのでした。「絵」と「ふきだし」を並列処理できるマンガ・リテラシーは、表意文字と表音文字を並列処理する特殊な言語である日本語話者において特権的に発達したという話です。ですから、マンガ分野における日本マンガの「一人勝ち」状態はこれからしばらく続くと思います。ただ、アニメは事情が違います。アニメの場合、観客には「ふきだし」の文字を音声的に処理するという手間が要求されませんし、だいたいアニメの上映時間は世界中どこでも同じですから、「アニメ・リテラシー」の差は国語間では顕在化しません(マンガ一頁を読むのに要する時間は個人のマンガ・リテラシーの差を示す一番わかりやすい **cシヒヨウ** ですけど)。

(内田樹『日本辺境論』[新潮社] より)

注 1 イノベーション……技術の革新。

2 リテラシー……読む能力。

3 祝詞……神に祈るときに用いることば。

4・5 “curse” “咒” ……ともに「のろい」の意。

問1 傍線部 a～c のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部1 「日本はちょっと違う」とあります、どのような点で違うのですか。次の文の二つの□にふさわしいことばを、それぞれ二十字以上三十字以内で補つて、答えなさい。

日本語の表記では、

話者は、脳内で  
二十九三十字

という点と、日本語

問3 □に入る最もふさわしい漢字一字を本文中から探して、書き抜きなさい。

問4 傍線部2 「残存臭氣をとどめている」とあります、その内容の説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本語の漢字からは、作られた当初と同じように原意が感じられるといふ」と。

イ 日本語の漢字からは、漢字の呪術的な働きを何となく感じられるといふ」と。

ウ 日本語話者は、漢字の持つ音を身体的な実感をともなって感じられるということ。

エ 中国語話者は、漢字の音の持つ呪術的な力を意識の深層に記憶しているということ。

オ 中国語の漢字には、古代の呪術的な戦いの痕跡<sup>こんせき</sup>が日常表現として残されているということ。

問5 □に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「ふきだし」は文字なのです  
イ 「ふきだし」は画像なのです

ウ 「ふきだし」は音声なのです  
エ 「絵」は表意的なのです  
オ 「絵」は概念的なのです  
力 「絵」は視覚的なのです

問6 傍線部3 「寸暇を惜しんで」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 休みの時間を削つても

イ 時間が少し遅くなつても

ウ 多くの時間かけてでも

エ 大切な時間を費やして

オ わざかな時間も無駄にせず

問7 本文の内容として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本語の処理の特殊性と、「絵」と「ふきだし」を処理するリテラシーには対応関係がある。

イ 世界の文字言語の大半は文字と音声の両方を用いるので、欧米でもマンガ・リテラシーは発展してきた。

ウ 多くの漢字学者が漢字の持つ呪術的な機能を考慮せずにその起源の研究を行った結果、漢字の使用者も呪術的な機能を忘れてしまった。

エ マンガは、文字は縦書き、頁は右から左に進む形式で発達し、日本人のマンガ・リテラシーに適合した芸術形式となつた。

オ 欧米語話者はマンガを読むために、長期にわたる集中的な読書体験を積んで、文字から画像を浮かび上がらせるリテラシーを身に付けた。

2022年度 第2回	国語	受験番号	座席番号	氏名	
---------------	----	------	------	----	--

<p>問3 <input type="checkbox"/></p> <p>問4 <input type="checkbox"/></p> <p>問5 <input type="checkbox"/></p> <p>問6 <input type="checkbox"/></p> <p>問7 <input type="checkbox"/></p>	<p>20</p> <p>30</p> <p>30</p>	<p>脳内で いう点。</p> <p>日本語の表記では、 という点と、日本語話者は、 20</p> <p>30</p>	<p>問1 <input type="checkbox"/> a  b  り  c</p> <p>二</p> <p>問4 <input type="checkbox"/></p> <p>問5 <input type="checkbox"/></p> <p>問6 <input type="checkbox"/></p> <p>問7 <input type="checkbox"/></p>	<p>40</p> <p>30</p>	<p>イオ先生は意味のわからない指示をするにも関わらず、 力がある人だということ。</p> <p>一</p> <p>問1 <input type="checkbox"/></p> <p>問2 <input type="checkbox"/></p>
<input type="checkbox"/> 合計					